

第6学年 体育科学習指導案

2組 計38人(男子16人, 女子22人)

指導者 染谷 慎治

1 単元 遠くへ もっと遠くへ みんなで工夫して楽しもう！投の運動(陸上運動)

2 単元の見どころ

- ・ 体重を移動させながら、腕をムチのように振り、投てき物が遠くまで飛ぶ角度で全身を使って投げることができる。【知識及び技能】
- ・ 自己の能力に適した課題解決の仕方、競争や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・ 約束を守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配りながら運動に進んで取り組むことができる。【学びに向かう力、人間性等】

3 単元で目指す子供の姿

主体性	遠くに投げるポイントを見付けたり、自分や仲間の投げ方の課題を見付け、粘り強く解決したりすることを通して、動きの変化や記録の伸びを実感するとともに、遠くに投げることの楽しさを味わい、身に付けた技能や解決の方法をこれからの学習や実生活に生かそうとする。
協働性	遠くに投げるポイントを見付けたり、自分や仲間の投げ方の課題を見付け解決したりする際に、仲間との「学び合い」を通して、互いの動きや考えのよさに気付くとともに、そのよさを尊重しながら伝え合い、協力して課題を解決しようとする。
創造性	これまでのボール投げの経験と本単元の学習で得た知識や技能を関連付けて、遠くに投げるポイントなどの新しい考えや自己の能力に適した課題の解決の仕方を見いだしていこうとする。

4 単元について

(1) 単元の位置とねらい

子供たちはこれまでに、ボール運動系の学習を通して、ねらったところにボールを投げたり、状況に応じてボール操作をしたりすることを経験している。また、陸上運動系の学習を楽しく行い、個人やチームでの対抗戦を行う中で、自分に合った競争のルールや記録への挑戦の仕方を工夫してきている。一方で、投げ方のポイントについては、主に中学年のベースボール型ゲームで学習しているが、ボールを遠くまで投げる技能を高める学習機会は少ない。さらに、体力運動能力調査結果でもソフトボール投げの記録は、全国平均を上回る子供は少なく、遠くまで投げることに苦手意識をもっている子供も多い。そのため「遠くまで投げたい。」「投げ方のポイントを見付けながらチームで競争して、記録を伸ばしたい。」という思いも強い。

そこで、新学習指導要領から陸上運動系において指導することができるようになった本単元では、遠くに力一杯投げる学習を通して、投の粗形態の獲得とそれを用いた遠投能力の向上をねらいに、一人一人が楽しみながら自己の記録を伸ばしたり、友達やチームで競争したりすることができるように学習を進めていく。そのために、自分の課題やその課題を解決するための遠くに投げるポイントを見付けられるようにする。そして、課題に応じた練習の場で仲間と「学び合い」を行いながら課題解決に取り組むことで技能を高めていきたい。

この学習は、「中学校第1学年及び第2学年：球技」の学習へとつながっていく。

(2) 教材について

本単元では、主教材として「ひっ飛べマイボール」を設定した。この教材は、子供が自分で作ったマイボールを力一杯投げ、飛んだ距離を得点化する。そして、単元の一つ初めの得点を基準に学習を進める中で、どれだけ伸びたかをチーム対抗で競う教材である。毎回、記録を残すことで、自己やチームの記録の伸びを実感し、喜びを味わうようにする。また、友達との「学び合い」を行い、自己やグループの課題を解決したり、分担した役割を果たしたりすることで、公正、協力、責任、参画、共生等の意欲をもつことができる。

これらのことから本教材は、体全体を使って投てき物を遠くまで投げたときの楽しさや達成感を味わいながら、単元の見どころを身に付けていくのにふさわしい教材である。

(3) 投の運動に関する子供の実態 (調査日 平成30年7月17日 調査人数34人)

項目	回答 (数字は人数)		
1 興味・関心	・好き(20) ・嫌い(13) ・どちらとも言えない(1)		
理由 (複数回答)	・遠くに投げられたらうれしい(11) ・気持ちが良い(6) ・楽しい(2) ・投げるのが好き(2) ・遠くに投げられない(11) ・肩や手首が痛くなる(2) ・拾うのがたいへん(1)		
2 単元のめあて	・ポイントを見つけて遠くまで投げられるようになる(28) ・チームで競って記録を伸ばす(4) ・足と手の関係を探る(2)		
3 楽しむための工夫 (複数回答)	・グループでポイントを見付ける(19) ・チームで競い合う(14) ・自分の投げ方を見ることができるようになる(1)		
4 遠くまで投げるポイント (複数回答)	・上に向かって投げる(15) ・助走をする(7) ・ボールを正しく持つ(3) ・腕の力をつける(3) ・上半身をひねる(2) ・大きく手を振る(2) ・足を大きく開く(1) ・腕を後ろに引く(1) ・少し声を出す(1) ・投げる手と反対の足を前に出す(1)		
5 技能	ソフトボール投げ平均記録	17m	
	ソフトボール投げで全国平均(男子:27.2m, 女子:16.5m)を下回った子供	26人	
	投げる前に体が横を向いているか	○25	△9
	投げる前に肘を上げてボールを頭の後ろまで引いているか	○12	△22
	投げるときに胴体の動きに合わせて肘から腕を振っているか	○27	△7
	軸足に体重をのせ、投げるときに踏み出した足に体重を移動しているか	○9	△25
遠くに飛ぶ角度で投げているか	○11	△23	

以上の実態から、本学級の子供は、投げる前の体の向きや腕の振り方は身に付いているものの、遠くに飛ぶ投げ方のポイントを理解していないために、投げる前の手の位置や体重移動、投げる角度に課題が見られる。そこで、本単元の指導に当たって以下のような手立てを行うこととする。

5 指導に当たって

(1) 主体的・対話的で深い学びを実現する教師の手立て【研究内容3】

ア 主体的な学びを実現する教師の手立て

子供の「グループで投げるポイントを見付けたい。」「チームで競いたい。」などの思いを基に、単元前半では遠くに投げるポイントを見付け、後半では課題に応じた場で練習することを課題に設定することで、進んで投の運動に取り組み、遠くに投げるための基礎的な知識や動きを獲得できるようにする。また、「確かめる」過程では、「分かったこと」、「できるようになったこと」、「うまくいかなかったこと」、「どうしてできるようになったのか」、「どうしてうまくいかなかったのか」などの視点で学びを振り返り体育ノートに記入することで、自己の現状や課題を明らかにして、主体的に学ぼうとする意欲を高めるようにする。さらに、単元の終末に「6-2ひっ飛び大会」をすることを伝え、本単元で学習した遠くに投げるポイントを活用して、大会で新記録を出して優勝したいという意欲を高める。

イ 対話的な学びを実現する教師の手立て

遠くに投げるポイントを見付ける学習では、チームごとの「学び合い」を通して、自分だけでは見付けることができなかったポイントに気づき、全体で共有することで、遠くに投げる体の動かし方を全員が理解できるようにする。また、自分の課題に合った場で練習する学習では、課題別の「学び合い」を通して、課題ごとに同じ視点で解決できるようにする。その際、タブレットPCを活用し、言葉だけでなく映像などの視覚的情報を加えてアドバイスしたり、自己や仲間の動きを体育ノートの絵に記入し、投げ方の変化や伸びを伝え合ったりすることで仲間の考えのよさを認め、自他の成長を実感したり、新たな課題に気付いたりできるようにする。

ウ 深い学びを実現する教師の手立て

遠くに投げるポイントを見付ける「学び合い」では、「新しく気付いたことはあるかな。」などの問い掛けをすることで、自分の考えや動きが深まったり、今までにない考えや動きを見いだしたりしたことに気付かせる。また、「今日学習した遠くに投げる動きは、どんなことに生かせそうかな。」と問い掛けることで、昼休みの遊びや自分たちが日頃している運動にも生かせることに気付かせ、進んで活用しようとする意欲を高める。さらに、「つかむ・見通す」、「確かめる」過程での発問を工夫することで、本単元で学んだ、仲間の考えや取組を認めるという学習内容を、学校行事(学習発表会、城山登山競走大会等)につなぐことができるようにする。

6 指導・評価計画(全5時間)

単 元		第6学年 陸上運動(投の運動)「遠くへ もっと遠くへ みんなで工夫して楽しもう!投の運動」(全5時間)				
目 標 (下線は、重点目標)	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】		
	① 投げる方向に対して横を向いた状態から、軸足に体重をのせ、前の足を1歩踏み出して体重移動することができる。 ② 肘を上げ投てき物を頭の後ろまで引き、肘を先に出しながら、腕をムチのように振って、速くに飛ぶ角度で投げる <u>ことができる。</u>	① 自己やグループの能力に適した課題を見付け、課題に応じた練習の場や段階を選ぶことができる。 ② 自己の能力に適した競争のルールや記録への挑戦の仕方を選ぶことができる。 ③ 自己や仲間の動きの変化や伸びを見付けたり、考えた <u>りしたことを他者に伝えることができる。</u>	① 投の運動に積極的に取り組むことができる。 ② 投の運動の約束を守り、仲間と助け合うことができる。 ③ 投の運動をするときに用具の準備や片付け、計測や記録などで、分担された役割を果たすことができる。 ④ 投の運動の勝敗を受け入れることができる。 ⑤ 課題を見付けたり、その解決方法を工夫したりする際に、仲間の考えや取組を認めることができる。 ⑥ 投の運動の場の危険物を取り除き、用具の安全に気を配ることができる。			
時 間 過 程	1	2	3	4 (本時)	5	
	つかむ・見通す	挑戦するⅠ		挑戦するⅡ		
学習課題	【単元を貫く学習課題】遠くに投げるポイントを見付けて、みんなで競いながら投の運動を楽しもう。					
	投の運動に挑戦して、単元のめあてと競争のルールを決めよう。	遠くに投げるには、どのようなポイントがあるのだろうか。		ポイントを生かして、もっと遠くに投げるには、どうすればよいだろうか。	大会を開いて新記録を目指そう。	
主 な 学 習 活 動	1 学習課題の設定	1 準備運動・のびのびタイム	1 準備運動・のびのびタイム	1 準備運動・のびのびタイム	1 準備運動・のびのびタイム	
	【のびのびタイム：学習指導要領に例示された技能に関連した易しい運動遊びを経験する時間】					
	・紙鉄砲	・めんこ投げ	・ロケット投げ	・バウンドキャッチ	・ダンボール崩し ・爆弾投げゲーム	
	2 準備運動・のびのびタイム 3 ゲーム 4 「学び合い」(全体) [競争のルール] 5 ゲーム(ひっ飛ばせ!マイボール) 6 まとめ 7 振り返り 8 単元のめあて	2 学習課題の設定 3 「学び合い」(全体)→(チーム) [ポイントを見付ける] 4 「学び合い」(全体) [ポイントの共有] 5 チャレンジタイム [ポイントを意識して] 6 ゲーム(ひっ飛ばせ!マイボール) 7 整理運動 8 まとめ 9 振り返り	2 学習課題の設定 3 「学び合い」(チーム) [ポイントを見付ける] 4 「学び合い」(全体) [ポイントの共有] 5 チャレンジタイム [ポイントを意識して] 6 ゲーム(ひっ飛ばせ!マイボール) 7 整理運動 8 まとめ 9 振り返り	2 学習課題の設定 3 練習の場の選択 4 「学び合い」(課題別) [課題解決] 5 「学び合い」(チーム) [動きの確認] 6 整理運動 7 まとめ 8 振り返り	2 学習課題の設定 3 「学び合い」(チーム) [課題解決] 4 ひっ飛ばせ大会 5 整理運動 6 まとめ 7 単元の振り返り	
	【ゲーム「ひっ飛ばせ!マイボール」】 	【予想される課題】 ・肘を上げて頭の後ろにボールを引く → ・肘を上げて投げる → ・腕をムチのように振る → ・投げる角度 →		【解決の場】 ・バトンを斜め上に投げる場 → ・バトンを斜め上に投げる場 → ・吊した物をラケット等で打つ場 → ・タオルを振って風を送る場 → ・バトンを斜め上に投げる場 →	【斜め上に投げる場】 	
学習内容	○ 目指す動きを知る。 ○ 単元のめあてを立て、見通しをもつ。 ○ 自己の能力に適した競争のルールや記録への挑戦の仕方を選ぶ。	○ 遠くに投げるポイント ・ 肘を上げ投てき物を頭の後ろに引き、肘を先に出しながら、腕を速く振る。 ・ 遠くに飛ぶ角度で投げる <u>ことができる。</u>		○ 自己の能力に適した課題を見付け、課題に応じた練習の場や段階を選ぶ。 ○ 自己や仲間の動きの変化や伸びを見付けたり、考えた <u>りしたことを他者に伝える。</u>	○ 自己やチームの課題を再考し、練習方法を選ぶ。 ○ 自己や仲間の動きの変化や伸びを見付けたり、考えた <u>りしたことを他者に伝える。</u>	
評価計画	② ①②⑥	② ③④⑤		①③	①② ③	

7 本 時 (4 / 5)

(1) 目 標

自己の課題に応じた練習の場を選ぶとともに、自己や仲間の投げ方の変化や伸びを見付けたり、考えたことを他者に伝えたりすることができる。【思考力、判断力、表現力等】

(2) 展 開 教師の言葉掛け 子供の反応 評価項目 ☆ICT活用上の留意点

過程 (分)	主な学習内容と予想される子供の反応	教 師 の 指 導
つ か む ・ 見 通 す (10)	<p>1 準備運動・のびのびタイム</p> <p>2 本時の学習課題を設定する。</p> <p>遠くに投げるポイントには、どのようなものがありましたか。</p> <p>投げる前に肘を上げてボールを頭の後ろに引くこと、投げるときに腕をムチのように振ること、ボールを遠くまで飛ばせる角度があることに気付いた。</p> <p>腕の振り方は分かったけど、ボールを上や下に投げてしまうので、遠くまで飛ぶ角度で投げたい。</p> <p>ポイントを生かして、もっと遠くに投げるには、どうすればよいだろうか。</p>	<p>○ のびのびタイムにBGMを流しながら基本的な投げる動きを行うことで、投の運動に必要な感覚を楽しみながら身に付けるようにする。 【主】</p> <p>○ 前時に学習した遠くに投げるポイントを振り返った後、「ポイント通りに投げることができましたか。」と発問することで、自分の投げ方の課題を想起し、本時の学習課題を立てられるようにする。 【主】</p> <p>○ 練習の場を選択する際は、斜め上に投げる場やタオルを振って風を送る場など、設定した各場の練習方法を掲示することで、どの子供も解決方法の見通しをもって課題に合った場を選ぶことができるようにする。また、現段階での自分の課題と練習方法を体育ノートに書くことで、振り返りの際、自己の変容と比較できるようにする。 【主】</p>
挑 戦 す る (25)	<p>3 自分に合った練習の場を選択する。</p> <p>自分の課題に合った場は、どこかな。</p> <p>腕をムチのように振ることが課題なので、タオルで風を送る場で練習しよう。</p> <p>投げる角度と体重移動について、斜め上に投げる場（フープ付き）で練習するぞ。</p> <p>4 「学び合い」を行う。(課題別)</p> <p>課題は、腕をムチのように振ることです。タオルを振るから、風が来るか見ていてね。</p> <p>肘を上げて頭の後ろにタオルを引けているね。もっと肘を先に出しながら投げたら腕がムチのように振れるよ。</p> <p>5 「学び合い」を行う。(チーム)</p> <p>体重移動の練習をしてきたから見ていて。</p> <p>軸足から踏み出した足にきちんと体重が移動するようになったね。練習の成果だね。角度にも気を付ければ、もっと遠くまで飛ぶよ。</p>	<p>☆ 「学び合い」(課題別)の際、タブレットPCを活用し、自己や仲間の動きを確認しながら言葉だけでなく映像などの視覚的情報を加えてアドバイスできるようにする。また、自分の考えや投げ方の変容を体育ノートなどに書くことで、広がったり深まったりした考えや動きを可視化できるようにする。 【対】 【深】</p> <p>◆ 遠くに投げる時の体の動かし方に着目して、課題に応じた練習の場で、仲間の動きの変化や伸び、新たな解決方法を伝え合っている。 【思考・判断・表現：行動観察、体育ノート】</p>
確 か め る (10)	<p>6 整理運動をする。</p> <p>7 本時のまとめをする。</p> <p>例：タオルで風を送る場で練習するとムチのように腕が振れて、遠くに投げられるようになる。</p> <p>8 本時の振り返りをする。</p> <p>タオルを振る場で、自分が投げている動画を見ながら仲間と学び合うことで、ポイントを意識しながら、腕をムチのように振れるようになりました。</p> <p>自分ができるようになったことや練習の様子を仲間が認めてくれてうれしかったです。自分も仲間のよい動きを見付けていきたいです。</p>	<p>○ 「学び合い」(チーム)の際、互いの動きを見合い、投げ方の変化や伸びを伝え合うことで、体重移動はできるようになったが、投げる角度に課題が残るなど、新たな課題に気付いたり、解決に向けた仲間の取組を認めたりできるようにする。【対】 【深】</p> <p>○ まとめをする際は、まず、個人で、次に、全体でまとめることで、課題に合った場で練習することのよさや友達の解決方法も知ることができるようにする。 【主】</p> <p>○ 振り返りをする際は、自己や仲間の動きの変容や理由を尋ねることで、課題別やチーム別での「学び合い」のよさを実感し、他の友達にも伝えたいという思いをもつようする。 【主】</p>

本時で期待される子供の姿

主体性	「ポイントを生かして、もっと遠くに投げるには、どうすればよいか。」という学習課題を立て、自分や友達の投げ方の課題解決に向けて粘り強く取り組み、学習を振り返り、自己の動きの伸びを実感したり、新たな課題に気付いたりする。
協働性	課題別グループやチームごとの「学び合い」を通して、互いの動きや考えのよさを尊重しながら、自己や仲間の動きの変化や伸びを伝え合い、協力して課題を解決しようとする。
創造性	本時で獲得した遠くに投げる動きを、次時の大会や実生活の中でのボール投げに生かそうとするとともに、自分の課題に合った場で解決に向けて仲間と認め合いながら練習することを、他領域でも実践しようとする。

本時で育成を目指す資質・能力

自分の課題に応じた練習の場を選ぶとともに、自分や仲間の動きの変化や伸びを見付けたり、考えたりしたことを他者に伝えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】

本時の「学び合い」の視点、思考の枠組み

【視 点】

【思考の枠組み】

遠くに投げるときの体の動かし方に着目して、課題に応じた練習の場で、仲間の動きの変化や伸び、新たな課題や解決方法を伝え合う。

「学び合い」での子供の発言の想定と教師の言葉掛け

自分の課題に合った練習の場で、「学び合い」を通して、課題を解決しましょう。

【腕をムチのように振る場】

【斜め上に投げる場】



ぼくは、腕をムチのように振りたい。タオルを振るから風で紙テープが揺れるか見えていて。



少し揺れていたよ。投げる前に横を向いて投げたら、体のひねりが腕につたわってムチのように触れると思うよ。



やっぱり最初は横向きの方がムチのように腕が触れるね。次は、もっと足を大きく前に踏み出してみたら。さっきより、一歩下がってやってみようよ。風が届くといいね。



斜め上に投げられるか見えていて。



斜め上に投げようとはしているけど、肘が下がって出ているから下に投げているね。肘を上げて頭の後ろに引いて、肘から先に投げるようにしてみたら。



肘が上がって斜め上に投げられるようになったね。体重移動ができたならもっと飛ぶよ。フープを置いてケンケンしてから投げてみようよ。



チームごとに練習の成果を確認しましょう。



腕をムチのように振る場で練習してきたから見えていて。



横向きから、大きく足を前に踏み出してムチのような腕の振りで投げられるようになったね。体重移動もできるといいね。



フープを置いてケンケンしてから投げるといいみたいだよ。やってみたらどう。



斜め上に投げられるようになったか見えていて。



肘が上がって斜め上に投げられているね。体重移動もできるようになったね。頑張ってる練習したのだね。



腕をもっとムチのように振ったら遠くへ飛ぶよ。次は、腕をムチのように振る場で練習してみたら。



振り返りにおいて期待される子供の発言や記述

- 自分の課題は、腕の振りだけだと思っていたけど、体重移動も課題であることを仲間が教えてくれました。フープを組み合わせて練習したら前より遠くまで投げられるようになりました。他にも課題がないか友達に聞いてみようと思います。
- 斜め上に投げられるようになったことや練習の様子を仲間が認めてくれてうれしかったです。自分も仲間のよさを見付けていきたいです。
- 今日の学習成果を次の大会で発揮したいと思います。また、昼休みのドッジボールでも、これまでより速いボールが投げられそうなので楽しみです。
- 〇〇さんが、タオルで風を送る場で仲間と学び合いながら練習して、腕をムチのように振ることができるようになっていました。わたしも自分に合った練習の場を見付けて、仲間と「学び合い」を行うことで、腕をムチのように振れるようになりたいです。